

搭載

0063

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

搭載

局長

出

第二課長

局員

頼

越

海

軍

大正六年

一月十二日

午後十一時五分 發電濟

軍務局長

艦政局

第二課長

鎮冬 謀 長 宛

第四課

長浦丸ニ搭載スヘキ短艇ハ貴府ヨリ提出セラルヘキ工事

方案ニ依リ決定ノ答ナルモ龍田廢艦ノ際分離還納

セル汽艇、カッター、傳馬船ハ裝備ヲ要スル見入ナリ

此際雜役船及除籍艦艇取扱規則第九條ニ依リ

一時使用ニトシテ搭載ノコトニ取計ハ度

(復田納)

艦船

0064

件

1.18

軍務局

大正六年

一月十一日

日午前十時四十分

海軍

局發

海軍

一月十二日

軍務局

受信者 軍務局長

電報譯

發信者 吳鎮参謀長

長補丸ニハ龍田汽艇ノ際分離還納セシ汽艇カツタ  
傳馬船ヲ搭載セシメラルル豫定ナルヤ若シ搭載スルモノ  
トセハ至急御手配アリタシ

丁

花

0065



官房檢密第四五九號

大正六年三月十六日 海軍大臣

横鎮司令長官 啓

長浦丸工事ニ関スル件

大正五年官房檢密第一三九九號ノ三訓令潜水艇母船  
長浦丸改造工事左記ノ通施行セシム  
右訓令ス

左記

一、短艇ハ左ノ通搭載ス

吳港務部保管自軍艦龍田還納

二十二呎汽艇 二隻、十六呎カッター 一隻

二十三呎通船 一隻

（左田）

海軍

0066

大正五年八月横鎮第九七九號ノ七報告戦利函復

二十五呎六吋ギグ一隻(假称第四号)

二、工事方案ニ関シテハ海軍技術本部長ヨリテ直接其ノ

府工廠長ニ通知セシム

三、豫算金五万三千九百四十六拾壹錢軍事費造船造艇修

理費支辨トシ別途配付ス

四、竹要兵器ニ関シテハ海軍省艦政局ヨリテ其ノ府工廠長

ニ通牒セシム

(3)

官房検査芳四五九號ノ二

大正六年三月十六日 海軍大臣

呉鎮司令長官 殿

長浦丸工事ニ関スル件

大正五年官房検査芳一三五九九號及同號ノ二訓令潜水艇母船長浦丸改造工事ノ残部施行方ニ関シ別紙ノ通横須賀鎮守府司令長官ニ訓令候條此ノ旨心得ヘシ

右訓令ス

(別紙ニ葉添)

終

(坂田)

艦政局

軍務局

第二課

兵備第一號

大正六年一月十七日

第一課  
第二課  
第三課  
第四課

海軍省軍務局長井上謙治殿

長浦丸須賀回航豫定日割

雜役船長浦丸横須賀回航豫定日割左記ノ通

有之矣但就運轉ノ結果ニ依リテ其奉日時ヲ變更ス

コト可有之矣俟所ヲ知置相成度

加通知

左記

百九十九號

6.1.23 交換

6月十九日 軍務局接受

6.1.20 交換

6.1.22 艦政局第一課

0069

月日	曜日	寄着地名	船程里	記事
一月二十一日	月	吾条 今夜	六二	
" 二十二日	火	小豆島内海	七三	
" 二十四日	水	由良内	八五	
" 二十五日	木	串本	六六	淡水補充
" 二十六日	金	島羽	九五	
" 二十七日	土	下田	一一〇	串本より直航令程一七〇里
" 二十八日	日	横尾	七〇	

備考 天候ノ都合ヲ以テ二十五日島羽寄着港ニ長ク止メ同岸

後串本津下見直航又

0070



紙 郵 案 起

大正六年十二月三日起案

起案者 陸印

十二月四日

日發付

發付掛 陸印

發付後起

案者捺印

村瀬

(主務) 軍務局長

第二課長

大臣

副官

次官

參事官

艦政局長

第三課長

第八課長

第九課長

局、部	官房	軍務	人事	艦政	機關	醫務	經理	法務	技本	造兵	教育	臨建	水路	軍令
受月日	十二月三日	官房	十二	十三										
發月日	十二月三日	十三												

大正六年十二月四日大臣

十一月二十八日進達軍艦千歳機關少尉候補生練習中海軍機關學校備付「カツタ」一隻搭載及同艦備付「ギグ」一隻一時陸揚ノ件認許ス

號番

官房第三六八號

母

直

0071

陸印

陸村

二 12. 3

官房第三六八號

大正六年十一月四日 大臣

教育本部長  
横鎮長官宛

海軍機關學校備付カッター搭載ノ件

本件ニ關シ別紙ノ通吳鎮守府司令長官進達ニ對シ認許候條此旨ニ得テ之  
右通達

(別紙一葉添)

終

發田納

0072

軍務局

軍務局

艦政局

十歳第一九三號

出立

陸軍部 十月十九日 於横須賀

千歳艦長 白根熊三

海軍大臣 加藤友三郎殿

第二課 「カツタ」搭載及「カガ」陸揚件

海軍機関少尉候補生練習中候補生兼用ト少少要付概

関機後備付「カツタ」一隻搭載致度尚搭載場所、関係上

本艦備付「カガ」一隻一時陸揚致度候條御認許相度

右申上ス

追テ本件ハ機関学校長ト協議済ニ有之候

官房第三七八號












0073

号外

大正六年五月一日付權須受

白根千歳船長

村瀬軍務局員殿

候補生兼用カギノ上ノ周ニ付

機関少尉候補生練習中候補生兼用トシテ海軍機関學

校備付カギノ上ノ考査搭載ヲ認許シテ得度旨本年上月

十九日附午歳第一九三号ヲ以テ上申申込今以テ認許旨之目下候補

生兼用ニ差支ハシ付右件至急申認許相成様可然申

取計ヲ得度

右依頼ス

〆

0074

供



軍務局

十月十日

艦政局

本校第二回の

大

日

官



参謀



大正十一年十一月十三日

6.11

海軍部長

海軍水雷學校長川原袈裟太郎



軍大臣加藤友三郎

第二課

附屬機雜役船受領件

一 中形敷設機五隻

但官房係在七史六年ヲ以テ佐中保防備隊ヨリ本校ニ轉属ス

一 公稱第四二三号史船

但官房係在七史六年ヲ以テ佐中保防備隊ヨリ本校ニ轉属ス

本校ニ附屬モノ

右受領済ニ付報告ス

終